

## 平成 30 年度新入生アンケートの結果と年度間比較報告書

平成 30 年度データ回収状況（期間：5 月 8 日～5 月 30 日）

	登録者数(人)	回答者数(人)	回答率(%)	H29 回答率(%)
日本語日本文学科	57	52	91.2	98.5
歴史文化学科	60	59	98.3	94.3
幼児教育専攻	129	128	99.2	98.4
学校教育専攻	90	89	98.9	93.2
特別支援教育専攻	33	31	93.9	97.1
人間社会学科	83	81	97.6	100
スポーツ健康学科	112	104※	92.9	92.4
薬学科	144	133	92.4	92.4
合計	708	573	80.9	96.4

※スポーツ健康学科へのアンケートは、諸事情により 7 月 5 日～7 月 24 日の期間に実施された。

以下は、全学共通の質問についての分析結果である。

## 問 1 大阪大谷大学に入学して満足していますか

	人数(人)		割合(%)		
	H29	H30	H29	H30	差
満足している	221	221	32.5	32.6	0.1
やや満足している	217	289	32.0	42.7	10.7
どちらとも言えない(普通)	207	135	30.5	19.9	△10.6
あまり満足していない	22	20	3.2	3.0	△0.2
満足していない	12	12	1.8	1.8	0
合計	679	677			

\*「満足している」と「やや満足している」を合わせた肯定的回答（満足群）は 75.3%であり、昨年度比 +10.8%、一昨年度比 +15.2%の結果からも、入学後 1 ヶ月時点での満足度はかなり高まってきた。

一方、「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせた否定的回答（不満足群）は -0.2%、また、どちらとも言えない（普通）は -10.6%となり、全体として満足度が向上しているといえる。

H29 と H30 で満足群、普通群、不満足群の割合に差があるかを検証するため、カイ 2 乗検定を行った。その結果、 $\chi^2=20.7$ 、 $P(2, 20.7)=3.2 \times 10^{-5} < 0.01$  となり 1%有意水準で、「大阪大谷大学に入学して満足していますかという質問において、H29 と H30 で満足群、普通群、不満足群の割合に差がある」ことが確認された。

## 問 2 本学を受験校に選んだ理由は何ですか（複数回答可）

	人数(人)		割合(%)		
	H29	H30	H29	H30	差
理念・校風	34	23	5.0	3.4	△1.6

教授や講師	35	30	5.2	4.4	△0.8
学びたい学科・専攻がある	455	443	67.0	65.4	1.6
少人数教育	78	91	11.5	13.4	1.9
資格・教採対策指導の充実	87	112	12.8	16.5	3.7
就職に強い	51	47	7.5	6.9	△0.6
現場体験を多く積める	43	42	6.3	6.2	△0.1
資格・免許が取得できる	348	311	51.3	45.9	△5.4
他大学に入学できなかった	189	160	27.8	23.6	△4.2
入学の難易度が自分にあう	126	114	18.6	16.8	△1.8
通学に便利	134	99	19.7	14.6	△5.1
人から勧められて	153	108	22.5	16.0	△6.5
クラブ活動に魅力(新)	---	64	---	9.5	---
その他	20	12	2.9	1.8	△1.1

\*「学びたい学科・専攻がある」は65.4%で、昨年度同様もっとも数値が高く、ほぼ2/3の学生が選んでいる。「少人数教育」「資格・教採対策指導の充実」への評価が高まっていることは、入試広報の成果と考えられる。また「資格・免許が取得できる」から「その他」までの項目（「クラブ活動に魅力(新)」を除く）では、減少している。

「他の大学に入学できなかった」などの消極的な入学理由が減少傾向にあることは、目的意識の高い自律的な学生が増えていると理解されるが、次年度以降もこの傾向が続くのか、推移を見守りたい。

### 問3 学生生活の中で特に力を入れて取り組みたいことは何ですか（複数回答可）

	人数(人)		割合(%)		
	H29	H30	H29	H30	差
資格・免許の取得	568	509	83.7	75.2	△8.5
合格するための勉強	411	368	60.5	54.4	△6.1
専門分野の知識・理解	284	274	41.8	40.5	△1.3
幅広い教養	187	191	27.5	28.2	0.7
人間関係を築く	200	192	29.5	28.4	△1.1
部活・サークル活動	250	248	36.8	36.6	△0.2
語学の習得	71	70	10.5	10.3	△0.2
趣味やアルバイト	235	224	34.6	33.1	△1.5
ボランティア	147	133	21.6	19.6	△2.0
インターンシップなど	90	81	13.3	12.0	△1.3
海外留学・研修	31	37	4.6	5.5	0.9
その他	2	4	0.3	0.6	0.3

\* 選択肢の中で最も回答数の多かった項目は「資格・免許の取得」75.2%だが、昨年度比-8.5%となり、一昨年度から上昇していた値が2年前に戻った状態である。「教員採用試験・公務員試験・国家資格試験等に合格するための勉強」も同じ傾向を示しており、昨年度比-6.1%となった。問2の「本学を受験校に選んだ理由は何ですか」への回答で、「資格・教採対策指導の充実」が増加しているのに、問3の「学

生生活の中で特に力を入れて取り組みたいことは何ですか」に対する回答で「資格・免許の取得」や「合格するための勉強」の選択が減っているのは、学修意欲の減退ではないかと危惧される。他の多くの項目でも数値が下がっており、特に学修に関する値の減少については、他の調査データとも関連させながら、時系列の変化を分析することが必要だと思われる。

一方、本稿では「本学の新生全体を1集団とみなしている」ため、学修指導に役立てるための分析結果を得ることが困難だともいえよう。各学科、専攻単位の分析・考察が重要である。また、各学科のDPとの乖離を把握する質問を組み込むようにしてはどうだろう。さらに、個人に着目し、学修成果の変化・意識の変化を分析して、学修支援の仕組みをつくるのが、満足度向上のための鍵であると考えられる。

#### 問4 今後、学生生活を送るうえで不安がありますか（複数回答可）

	人数(人)		割合(%)		
	H29	H30	H29	H30	差
授業(勉強)	465	423	68.5	62.5	△6.0
就職	326	303	48.0	44.8	△3.2
教員・公務員試験対策	260	240	38.3	35.5	△2.8
資格・免許取得	377	324	55.5	47.9	△7.6
教員	273	260	40.2	38.4	△1.8
友人(先輩)	108	90	15.9	13.3	△2.6
部活・サークル	109	93	16.1	13.7	△2.4
アルバイト	141	96	20.8	14.2	△6.6
通学	91	85	13.4	12.6	△0.8
パソコンの活用	164	158	24.2	23.3	△0.9
学費	181	161	26.7	23.8	△2.9
新生活環境への適応	118	86	17.4	12.7	△4.7
英語(外国語)	192	162	28.3	23.9	△4.4
特にない	23	33	3.4	4.9	1.5
その他	2	3	0.3	0.4	0.1

\*新生が最も不安を抱いている上位2項目は、今年度も「授業(勉強)」と「資格・免許取得」となり、過半数以上の数字となった。ただ、ほぼ全項目で前年度比マイナスとなり、「学生生活への不安が減少している」ととらえることもできる。

しかし、問3の考察で述べたように、「大学生活に対する期待や意欲が減退」しているので「不安も減少」していると考えれば、それは大きな問題である。「意欲を減退させている原因」を見つけ、早期にその問題解決を図るべきである。無関心・意欲の乏しい学生に、指導やアドバイスの効果を期待することは困難であろう。

#### 【総括および大学の対応】

今回も、学びたいこと・目的意識・目標を明確に持ち、免許や資格取得への取り組みを熱心に考えている新生が多いことがうかがえた。特に、本学入学に対する満足度が有意に変化している点は、望ましい変化と評価できる。また、将来に対する、日々の「授業」、「就職」、「教員・公務員試験対策」、「資格・免許取得」、「教員」に不安を抱く新生が、少なくとも30%以上いる点については、昨年度と同じ傾向で

あることも確認された。

しかし、「資格・免許の取得」「教員採用試験・公務員試験・国家資格試験等に合格するための勉強」への取り組み意欲が低下していると同時に、「学生生活を送るうえでの不安」もほぼすべての項目において値が小さくなっていることから、学生生活そのものへの希望が低下し、無関心になってきているのではないかと危惧される。今後、他の調査とも関連付けながら、時系列での変化に注目していきたい。

教職教育センターでの教職支援や就職課の多様な就職支援、昨年度開設された英語教育センターでの資格取得や語学力向上のための英語教育支援、初年次からの少人数教育や「オフィスアワー」などの学修支援、アクセスルームの整備等、多様な支援体制を基盤として、学生一人ひとりに対する個人情報に基づく個別学修支援を充実していくことが今後の課題である。

以上